


環境教育講座

整理番号: 20251113

イベント名	循環型社会の実現に向けた環境行動
実施内容	
活動日時	2025年11月13日(木)14:00～15:30
活動場所	浜松市西部清掃工場 啓発施設「えこはま」
活動者名	高根美保
詳細	①ごみってなに？ 廃棄物処理法について ②浜松市の家庭ごみ減量について ③SDGs 2025国際連合広報センターの進捗報告 ④ごみになる時間と紙容器リサイクル事業について ⑤紙容器リサイクル活動の実践 ⑥雑がみ啓発活動について
事業の様子と成果	<p>参加者: 浜松磐田信用金庫篠原支店職員 2名、浜松市篠原中学校2年生 5名 配布物: 紙容器リサイクル事業(チラシ・紙袋・メモ帳)、ミニ水筒、海洋プラボールペン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみを減量する意味を環境行動と合わせて説明。 ・SDGsの進捗状況の説明に合わせて浜松磐田信用金庫篠原支店の取り組みについて説明。 ・浜松磐田信用金庫が取り組んでいる環境行動「雑がみ啓発事業」についての必要性を説明。 ・市民×企業×清掃工場が実践中の実証実験「紙容器リサイクル」について説明後に、篠原支店にて回収された紙容器(2.8kg)の選別・計量・洗浄作業を体験。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのものには「ごみになる時間」があることを改めて考える時間となった。 ・浜松市が目指す家庭ごみ減量について知ることができた。 ・リサイクルでは、正しく出すことが重要だということが分かった。 ・SDGs活動の成果が思った以上に進んでいないことが分かった。 ・紙容器を点検したら食品残渣が残っているものが4割程度あった。水につけて洗浄したが、なかなか取れない。きれいに出すためには、食べ終わったときに洗浄をすることが重要だと分かった。 ・回収拠点である篠原支店の職員さんにも紙容器が回収された後にどのようなようになるのかを説明する良い機会となった。
	

記録添付

